

第29回

うつのみやこども賞だより

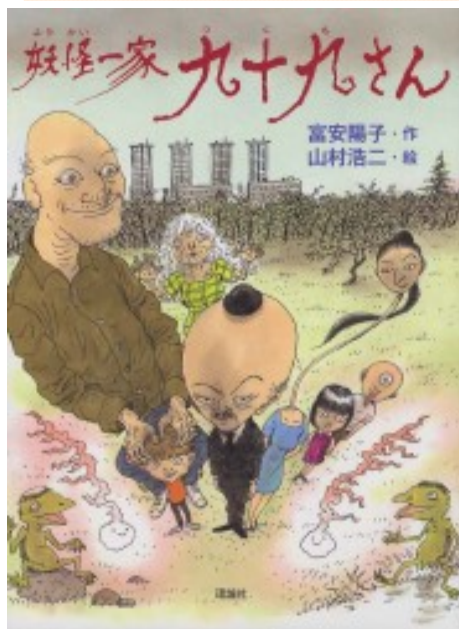
平成24年度 第1回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『妖怪一家 九十九さん』

富安陽子／作 山村浩二／絵 (理論社)



～読んだ本の感想よ～

- 「次はどんなことが起こるのかな？」とワクワクしました。特に二人のどろぼうをみんなで追いつくところがおもしろかったです。
- オクリオオカミが子天狗を救出するところがすごいなと思いました。
- 九十九さんに会ってみたいと思った。
- ようかいは「きれい」と思っていたけど、よむととてもおもしろくていいなと思いました。とくに、さっちゃん、思ったことがわかるのでちょっとこわいなと思いました。
- 妖怪が町の団地にすんでいるところがおもしろかった。
- 九十九さん家が、どろぼうをつかまえるときに、ようかいたち全員のこせいが出ていて、おもしろかったです。

『雪ぼんぼりのかくれ道』 巢山ひろみ／作 (国土社)

- うさぎを追って迷いこんだ所は神さまの通る「かくれ道」という所がちょっとふしぎでおもしろかったです。
- カナといろいろな神様の交流があり1人ひとりの神様の助けがあってこそ、カナの命が助かったのがよかった。
- 心が温まるようなぬくもりのあるお話でした。おばあちゃんが果奈のことを忘れてしまっていてさみしかったけれど、思い出してくれて良かったです。
- たかとびと、果奈がいろいろな人物にたちむかっていき、はらはらドキドキするのがおもしろいです。

『公平、いっばつ逆転!』 福田隆浩／作 (偕成社)

- 公平は本当は弱虫、いじめられっ子だったのに転校先では「強い」ということになってしまっていて、どうするのかな、と思いました。けれど、すもう大会で公平はたまたま(?)勝ってしまってびっくりしました。とっても面白かった。
- 気がよわくてめだつのがきらいな公平。そんな公平が相撲大会で長州に勝ってしまうなんて思ってもみませんでした。公平と委員長の友情に感動しました。
- 公平が長州とのすもうたいけつで、すつきをして長州にかかったところがおもしろかった。
- 気が弱い公平が、長州とその下っぱをやっつけてしまったところがよかったです。最後に児童会長に立候補したところがすごいと思いました。

『ぼくとおじちゃんとハルの森』 山末やすえ／作 (くもん出版)

- 輝矢がおじいちゃんといっしょにハルをひきとったかいぬしをさがすシーンで、ハルをだいに思っている二人のきもちが表れていて、すごくかんどうしました。
- モリオじいちゃんの家についているハルに会ってみたいと思いました。森のブランコにもものってみたいと思いました。
- 自然のよさがわかるきがする。ハルがいてよかったと思う。本の中に入ったきもちになった。
- 結末にはおどろいた。人は1人では生きていけないと思った。